

## 輝く!地域へ飛び出すJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

### No.19 夏季休業中の「イングリッシュ・キャンプ」

実施時期：平成26年～現在

任用団体名：新潟県上越市

#### 取組のポイント

- 夏季休業中に、19人のJET-ALTを活用し、中学生を対象に、1泊2日の「イングリッシュ・キャンプ」を実施。
- コロナ禍以前は、妙高少年自然の家を会場にJET-ALTが考案した活動にグループ単位で参加。英語だけの2日間を体験。

#### 任用団体の基本情報

人口：184,082人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 19人 (CIR) 0人 (SEA) 0人

学校数：小学校47校、中学校22校

#### 取組の背景・課題

上越市では、平成3年から学校での英語教育にJET-ALTを活用し始め、児童生徒が自ら積極的にJET-ALTに挨拶したり話しかけたりするようになってきた。しかしながら、普段の生活の中で英語を使う場面が乏しく、学校での学習を活かす機会が不足していた。

そこで、生徒が英語を活用する機会を増やすため、JET-ALTを授業のない夏季休業期間に活用し、希望する中学生を対象にして「イングリッシュ・キャンプ」を市教育委員会が企画し実施することとなった。

#### 取組の内容

- ゲームや遊び、少年自然の家周辺のオリエンテーリング、スポーツ、自国の遊びの紹介、JET-ALTの寸劇、グループごとに練習したパフォーマンス発表など、JET-ALTが考案した活動を実施する。
- 朝はラジオ体操（英語バージョン）に始まり、朝食、昼食、夕食、入浴と生活を共にする。
- スタッフはJET-ALT19人と市教育委員会担当者2人（日本人）である。
- 日本人スタッフは活動中や生活場面でも生徒から距離を取り、生徒とJET-ALTとが接する状況を確認している。
- コロナ禍では、感染予防のため宿泊や食事を共にすることができなかったが、午前中の活動を2日間行った。

## 取組の内容（続き）

- 初年度は、参加する生徒の中学校の英語教員と市教育委員会担当者をスタッフとしたが、生徒が困ったことがあると教員に助けを求めがちになったり、教員が良かれと思いきずに手助けしたりする姿が見られた。
- 2年目からは、教員スタッフを使わず、日本人スタッフは市教育委員会担当者のみとした。生徒は自分たちでJET-ALTとコミュニケーションをとる必要があるため、聞き返したり、ジェスチャーや表情を使って気持ちを伝えたりしていた。
- 例年50人程度の参加者があり、2年目以降はリピーターが2～3割に及んだ。

平成30年度の「イングリッシュ・キャンプ」より



オーストラリアの自然をテーマにした活動に挑戦している様子



カナダの遊びを体験している様子

## 取組の成果・今後の展望

毎年「イングリッシュ・キャンプ」後に実施しているアンケートでは、参加生徒の9割以上が「自分から挨拶した」「積極的に英語を使った」「相手の言っていることを理解しようとした」などと回答している。また、自由記述では、

- 他校との関わりをもてて楽しかったし、なにより英語力がとても身についた。
- 今まで英語を使って人と話すということがあまりなかったけれど、この機会のできたのでよかったです。
- いろいろな国出身の人たちがいたから、その分たくさん外国の文化について知れてよかった。とても楽しかった。

といった感想が集まっており、生徒が英語を使うことに自信をもつ良い機会となったと考えている。

この取組の継続とともに、学校の授業で児童生徒が英語を使う場面を、JET-ALTが工夫し発展させていくことを期待している。

## 問合せ先

担当部署名：上越市教育委員会学校教育課

T E L : 025-545-9244

M A I L : jecomite@jorne.or.jp（代表メール）

U R L : <https://www.city.joetsu.niigata.jp/soshiki/j-gaku/>

